



第22回 10年越しの保護フィルム

連載
太田哲也の

フェラーリ ニッポン

TEZZO F 360
ストラダレ
製作プロジェクト

ストラダレ

タイトルにある10年越し……とは、もちろん製品のことでない。
造り手側のある想い、だ。かつて太田に憧れた男が、ひとつの想いを
もってTEZZOの門を叩く。そして生まれた結果、とは？



著者プロフィール 隠岐麻里奈
サッカーなどを中心にしたスポーツドキュメントを得意とするスポーツライター。ほかにも、一脱法で著者インタビューなどの連載も持つ。

隠岐麻里奈●文 (text by Marina Oki)
青山勝己●写真 photographs by Katsumi Aoyama
グローバルボディーファクトリー●協力
cooperation by Global Body Factory
テツオ●写真協力 photographs&cooperation by TEZZO
☎045-948-5535 / HP=<http://www.tezzo.co.jp>



**TEZZO
STYLE**
—WEAR—

**TEZZO流を
身につける。**

太 田哲也がプロデュースするブランドであるTEZZOは、このようなウエア類をプロデュースしている。Tシャツはハーネスとピットボードという、いずれもサーキットを連想させるもの。ポロシャツとVネックシャツは背中にTEZZOのイメージシンボルである、不死鳥のイラストが描かれている。これらはいずれも下記サイトから、TEZZOのアンテナショップである、TEZZO STYLEなどで購入が可能となっている。

ホビダス <http://www.hobidas.com/>にアクセスし7桁のホビダスナンバーを入力すると、商品画面に行けます。(携帯電話からはアクセスできません)



ハーネスTシャツ
価格3990円
ホビダス 51801216



**ピットボードタイプ
Tシャツ**
価格3990円
ホビダス 51801215



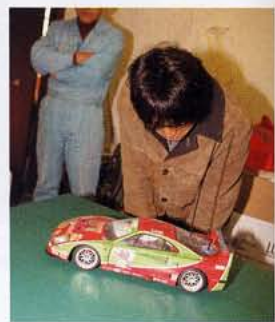
バードポロシャツ
価格5460円
ホビダス 51801217



VネックTシャツ
価格4990円
ホビダス 51801218

いまからちょうど1年前の冬のこと、TEZZOに電話がかかってきた。「ROSSOで連載している太田さんのフェラーリにボディ保護フィルムを貼らせていただきたいんです。」
電話の主は、GBF(グローバルポディーファクトリー)の笹川豊。その数日後、笹川は太田に会い、ボディ保護フィルムの有効性について説明する機会を得た。

ボディ保護フィルムとは、愛車を飛び石や砂塵から守るために貼るフィルムのことだ。素材は、柔軟性と伸縮性に富んだ厚さ150μのポリウレタン製のフィルムをベースとする。そのため、3次曲面に対してもクオリティ高く貼り込むことが可能になる。さらには、非常に高い透過性があるため、貼った部分が黄ばんでしまうようなこともなく、ごく近くで見なければ境目もわかりづらいという。



文中にあるF40GTのラジコンカー。約11年前に太田が入れた、サインが残されていた。

笹川から説明を受けた太田は、「サーキットでこそ有効性がすぐにわかると思う」と興味をもった。フェラーリよりも、まずはレースを間近に控えたアルファ159 3・2TEZZO SPORTSに貼ることを頼んだ。その最初のレースで、太田は図らずもボディ保護フィルムの絶大な効果を知るようになった。レース中に直前を走るクルマがダートに入り、ものすごい勢いで飛び石を浴びたのだ。「マシンガンをぶっ放されたみたいだったよ。」



GBFの工場にて左がGBFの笹川、右が関根社長。GBFでは保護フィルムとして、アメリカで定評のあるルーマー製を採用している。

しかし、レース後はボディに傷がつかず、フィルムのクッション性もあり、飛び石の跡はフィルムに多少あったが、被れてもいなかった。「フェラーリもサーキット走行前に貼ってもらおう。」
そして、いよいよフェラーリのサーキット走行の日が近づいてきた。太田はTEZZO F360のステアリングを握り、GBFを訪れる。そこで太田は意外なモノを目にした。かつて自らが駆っていたフェラーリ・クラブ・オブ・イタリア・チームのF40GT E

のラジコンカーだった。「1997年10月26日チームFCJ」という文字とともに自らのサインが入っていた。「あれ、これは俺のサインだな。」
そのラジコンカーは太田が乗るF40と同じカラーリングに笹川が自分でしたものだ。それに1997年当時、直接サインをもらったのである。「太田さんとは、それ以後も会ったことがありません。雑誌の企画で太田さんが僕の愛車だったスーブラに乗ることになったんです。」
ひととおりの試乗した後、太田が笹川に「もう一回乗らせて」と言った。「どうしてそのとき、隣に乗せてほしいと言えなかったのかとずっと悔やんでいたんです。」
その話を聞いた太田は、「ああ、そういえばそんな企画があったなあ」と懐かしんだ。
笹川が続ける。「僕、そもそもフェラーリが好きだったんです。そのフェラーリでイタリアのチ

ームに合流し、日本では自分のチームを作って戦っている日本人がいる。それが太田さんだと知って、誇りに思いました。」
こうして、10年の歳月を経て、笹川青年は憧れだった太田哲也の、そして大好きなフェラーリに自らの技術をもって保護フィルムを貼るということになったのだ。
1年前の電話に熱意が入っていたのも当然のことだった。そばで話を聞いていたGBFの関根社長は、言う。「あのとき、企画を私にもって来た笹川の目の輝きが違っていただけだね。じゃあ、やってみたらと言ったんですよ。こうして僕が、いま太田さんと話しているのも、不思議な縁ですよ。」
関根は、10年前にGBFを立ち上げた。18歳で学校を卒業してから、三菱ディーラーに就職し、クルマ好きが高じてラリーにも打ち込んだ。ラリーで傷んだ愛車をみて「自分の手でキレイに直した

い」と思い、板金塗装の勉強を始める。その後、BMWディーラーでマネージャーを務めていたが、一念発起しGBFを立ち上げる。何事も「自分でやってみないとわからない」という性格から、板金、修理、塗装、販売なんでもやることにした。「最初は一文無しのサラリーマンで、借金スタートでしたけどね」と振り返る。
そして、昨年のこと、新たな試みとして保護フィルムを始めようということになった。板金屋にとってクルマの傷が付きにくくなる保護フィルムは商売の妨げになるだろうと感じるが、関根はクルマを大事にしたい気持ちのほうに勝っていた。
「ガラスコーティングすればクルマはキレイになるし、傷がついても板金修理すればいいという考えもあります。でも、フィルムを貼ることの方が大事なクルマを守るという『保険』としての意味が大きいと思っただけですよ。」
また、ガラスコーティングやボディコーティングを施した上に、保護フィルムを貼るのもOKで、むしろ汚れ防止になるだけでなく紫外線防止効果も強い。そのため、色の変化を防ぐ意味でもベストなのだという。(次ページへ続く)

**TEZZO
STYLE**
—MODIFY PARTS—

太田哲也が考える、159の理想系。

本 誌での連載はフェラーリをテーマとしているが、事故からの復帰以来、太田が積極的に関わっているアルファロメオでも、TEZZOはさまざまなパーツを開発中。テーマは太田哲也が考える、理想のアルファロメオだ。写真のストリート仕様のほかにもサーキット仕様や、プレラをテーマとしたチューニングパーツも用意。ここでは代表的なものを紹介しよう。

ホビダス <http://www.hobidas.com/> にアクセスし7桁のホビダスナンバーを入力すると、商品画面に行けます。
(携帯電話からはアクセスできません)



159には純正でTEと呼ばれるスポーティバージョンがあるが、こちらはTEZZO流TEと呼ぶ。エアロ、ホイール、マフラーに違いを見出せるが、見えない部分では足まわりに注目したい。



F1タイプ パドルシフト

価格2万4150円

ホビダス 51806379

アルミ削り出しのパドルシフト。手ごたえは「撃鉄を引くよう」な昇降感とか。159だけでなく、プレラやスパイダーにも対応。



クワンタムMA車高調キット

価格36万7500円

ホビダス 51806382

360モナ用も製作したクワンタム製のショック。他にも全長式のMAH、サーキット向けのAAタイプの計3タイプが用意される。



フロントスポイラー (TEZZO刻印入り)

価格6万9300円

ホビダス 51806376

サーキットでも有効なダウンフォースが向上。ウエッジラインの採用で、車高が低く見えつつも、ロードクリアランスを確保。



ライトウエイト スポーツマフラー [トルク&サイレントVer.]

価格15万9600円(フル付)

ホビダス 51806381

仕上げが美しいハンドメイドのマフラー。軽やかかつ静音性や振動性にも優れる。2.2/3.2共に対応。他にもパワーVerを用意。

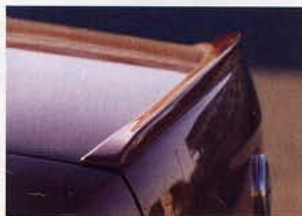


リヤスポイラー (TEZZO刻印入り)

価格4万8300円

ホビダス 51806378

トランクエンドに装着し、自然な形でフィット。ダウンフォース増加と、アビアランス向上という両面から効果が期待できる。



サイドスカート エアダクト付き

価格9万4500円

ホビダス 51806377

156の日本仕様では標準装備だったサイドスカート。159にもこうして装着すると、よりアルファらしい雰囲気に変身する。



左上が、今回貼り付けたフィルムの一覧を示す図面。既に型をとってあればPC上からデータを送信し、奥のカッターで製作ができる(右上)。右の2枚はフィルムを貼り付ける作業の様子。1枚ずつ、丁寧に手作業を重ねる。なおフィルムはフェラーリ各車種に施工を対応しており、今回の360モナの場合、バンパー/フード/フェンダー/ミラー/ライトのセットで、施工費を含んだ価格が価格は18万5000円となる。
©TEZZO STYLE 045-948-5535



「ポールペンでさしても穴があかない丈夫なもの(関根)であり、伸ばしてしままでの保護フィルムは伸縮性が乏しかったため、三次曲面には切れ目を入れていた。しかし、今回採用したフィルムは伸ばして貼れるので、極力切れ目なくボディにフィッティングすることができている。」

「いままでの保護フィルムは伸縮性が乏しかったため、三次曲面には切れ目を入れていた。しかし、今回採用したフィルムは伸ばして貼れるので、極力切れ目なくボディにフィッティングすることができている。」

「艶が増したね。これで、サーキットを走る準備が整った。」
足まわり、エアロパーツ、保護フィルム。職人の手によって「走る」準備が整ったTEZZO F360。はい、サーキットで走る日が迫ってきた。(文中敬称略)

「最後にコーティング材を塗るのだが、これを塗ることでゴムのような肌触りが滑らかになり、フィルムの静電気防止と汚れ防止に効果があるという。こうしてTEZZO F360に保護フィルムが施された。バンパー半分、フェンダー、ライト、サイドステップやエアロパーツの飛び石防止に当たる部分が保護された。」

では、どういう手順で保護フィルムは施工されるのだろうか。TEZZO F360に笹川が施工する場をみせてもらった。

すでにコンピューターに純正の型が入力されている場合は、コンピューターから車種を選び、大型カッティングマシンでフィルムを出力する。それ以外の車種は、最初に型取りを専用の和紙(アプリケーションフィルム)で行なう。

も熱収縮しないため、縮むことがなく貼りやすいのだそうだ。

とはいえ、曲面にフィットしていく様は、まるで魔術師のようで、熟練したプロの手によれば、フィニッシュの美しさは違ってくると思像できた。

「とくに、モナはバンパーが難しく、ライトとの隣接部分をいかにしわなく施工できるかですね。」

**フェラーリ
ニッポン
ストラダレ**